



農地再生レポート通信



発行: 福島県耕作放棄地対策協議会 編集: 福島県農村振興課 TEL 024-521-7415 FAX 024-521-7545 E-mail: nosonshinko@pref.fukushima.lg.jp



今季のさわやかリフレッシュ



～農業委員会が主導して行う遊休農地解消の取り組みを紹介します～

「耕作放棄地解消に向け「エゴマ」推進」の巻

福島県大玉村（大玉村農業委員会 農業委員9名 推進委員8名）

解消面積
約2.2ha

地域の特徴・状況、課題



- 水田地帯である大玉村では、一部畜産や花きの生産はあるものの、全体として畑作による高収益作物の栽培は少なく、農業従事者の高齢化により遊休農地が増加、耕作放棄地となっていく畑をどう活用していくかが大きな課題となっていました。

- 平成28年農業委員会では遊休農地を活用してエゴマの試験栽培を開始。その際、村内農業者から栽培実施者を募り、協力してもらっています。
- 先進地研修や農業者への栽培研修会を重ね、エゴマの栽培技術を確立。
- エゴマの生産者を増やしていくなかで「**おおたまエゴマの会**」が平成29年10月に設立されました。
- 県や村の補助を活用してエゴマ搾油機やコンバインなどを導入、共同利用による効率化を図るなどエゴマの会の自立運営を目指しています。
- 販路は直販所がメインで、主に「エゴマ油」として販売。さらに村とともに6次化や販路拡大を検討中です。

課題解決に向けた活動



試験ほ場



(エゴマの会の皆さん)

今後の方向性



試験栽培は、当初の40aから70aに拡大(平成30年7月)引き続き農業委員会による新技術の試験や村の補助事業による支援を継続し、エゴマの会の自立運営を目指しています。
★遊休農地解消面積は全体で約2.2haになりました。

むらからまちから

白河市農業再生協議会

の取り組みを紹介いたします。

① 協議会の設立経緯

当市では、耕作放棄地再生利用緊急対策の実施主体として、平成21年に白河市耕作放棄地対策協議会を設立し、平成24年度に、現在の白河市農業再生協議会と合併し、耕作放棄地の再生利用に取り組んできました。

② これまでの取組状況

当協議会では、国の耕作放棄地再生利用緊急対策交付金を活用し、耕作放棄地を解消してきました。再生された農地では、そば・キャベツ・麦など、多種多様な作付けが行われています。

③ 特徴的な取組

表郷地区において、平成26年度及び27年度に県の耕作放棄地活用条件整備復興促進事業を活用し、企業が耕作放棄地の解消を実施するとともに周辺農地の集約をした結果、新たな雇用の場を創出しています。

④ 今後の抱負・活動展開予定

当市では、農業者等に農地バンクの利用を呼びかけ、遊休農地の効率的な活用を促すとともに、耕作放棄地解消を実施した取組主体に対して行っている上乗せ補助を積極的にPRすることで、荒廃農地の発生防止と解消に努めたいと思います。



再生前



再生後



代表取締役 羽田 正 氏



再生した農地

にインタビューしました!!

A



今後の耕作放棄地活用等の展開について
お聞かせください。

今後とも地域からの要請があれば耕作放棄地の解消を行って
きたいと考えています。
また、地域の高齢者が一品目ずつ農作物を生産し、それを学
校給食等に提供する取組が出来たらいいと考えています。
高齢者にとっては心身の健康を維持でき、子供たちにとつ
ては地域への愛着を持つきっかけになり、地域外に出ても、や
がてまた戻ってきたいと思ってもらえるようにしたいと考えて
います。

A



耕作放棄地解消の取り組みについてお聞かせください。

平成18年には、稔りの農地総合再生事業（県単独事業）に
より、20ヘクタールを解消しました。その後、地域の地権者
から農地の賃借を依頼されたこと等により、耕作放棄地緊急対
策交付金を活用し、平成24年から5・94ヘクタールの耕作
放棄地解消を行ってきました。

A



耕作放棄地再生に取り組んだきっかけについて
お聞かせください。

実家は福島市で農業を営んでいたため、私自身も高校で農業
士木を学びました。
会社員を経て、昭和57年には建設会社を起業し、平成3年
から地域の共有地を借り受け、農業を行ってきました。
耕作放棄地再生に取り組んだきっかけは整備された農地が荒
れていくのを目の当たりにしたことです。
また、平成18年頃は公共事業の受注高が少なくなってきた
ため、経営の多角化を目的として、余剰の建設機械を耕作放棄
地再生に活用できるのではないかと考えた事からでした。



羅針盤

～福島県・県協議会からのお知らせ欄～



～福島県並びに県協議会からのお知らせ～

◎東北農政局主催の「東北管内荒廃農地解消事例発表会」開催（予定）のお知らせ
〔日時〕平成30年10月31日（水）13:30～ 〔場所〕仙台合同庁舎

今年の優良事例発表では、本県から平成28年度に交付金を活用し経営規模の拡大を図った取
組主体が参加します。パネルディスカッションでは、各県発表者の生の意見や感想などが聞ける
良い機会ですので、是非ご参加ください。※詳細は後日関係機関宛に通知いたします。



友人と会えば必ずでる話題は「健康」に関すること。”体にいい”と聞くと何かとチャレン
ジしたくなる性分。『エゴマ油』＝美肌・脳細胞イキイキ（^^）/ 『おおたまエゴマ油』は
直売所でのみの販売とのこと。まだ、ポチッと 手軽に入手できないので、福島県産で検
索、購入してみたいと思います。油なのでとりすぎは注意ですね。...

※今後「農地再生レインボー通信」の配信を希望される方は、
nosonshinko@pref.fukushima.lg.jp までご連絡ください。